

第8期清掃・リサイクル審議会 答申に向けた意見整理（※第4回審議会での意見は、裏面にまとめています）

検討の視点	委員から出された意見
1. プラスチック資源循環	<p>リデュース（発生抑制）をできるだけしたい。そのために分別は必要なことだと思う。</p> <p>生活の習慣が、少しでもリデュース（発生抑制）につながるということもある。</p> <p>プラスチック製品を買わない、使わないに「捨てない」をプラスしてはどうか。</p> <p>薄いプラスチックを回収する取り組みを進めていただきたい。</p>
2. プラスチックの搬入先（中間処理施設）	<p>合理的な距離で、合理的な値段で見つけられるのか。具体的な場所とコストが、分別をやるかやらないかの判断の重要なところになる。</p> <p>選別施設とか地域の方にご迷惑をかける要素のあるような施設を自区内に持たないで他の所をお願いするのはいかがなものか。</p> <p>中間処理施設みたいなものを、本当に世田谷区の中でつけれないのか。できるだけ閉鎖式の施設にして、臭いや音などが漏れないような感じで作るとか。</p> <p>中間処理施設が身近な場所にあることで、学習や啓発にもつながるのでは。</p> <p>中間処理施設を区内に作り、近隣区も使えるように誘致してはどうか。</p>
3. 経費	<p>方向性としては、当然分別をしてリサイクルしていく話だと思うが、分別の作業の問題とか労力の問題とか、どれくらいお金がかかるのか比較しながら考えていく話かと思う。</p> <p>区でこのプラスチックの課題にどれだけの予算がかけられるのか、区の他部門との兼ね合いもあると思う。審議会からの提案については、ハードルの高い低いもふまえて議論すべきでは。</p> <p>C02を本当に削減したい、環境のため気候変動のためっていうことであれば、思い切ってどんなにお金がかかっても、中間処理施設が外部になってしまったとしても、C02削減に最終的に繋がるのであればその方法を選んだ方がいいのでは。</p> <p>1年間で1人当たり2,000円程度であるならば、許容範囲内とも考えられると思う。総額で見えてしまうと非常に莫大な金額であるが、特に1人当たり・1世帯当たりの負担額で考えると数字が小さいのかなと思う。</p>
4. 国や事業者への働きかけ	<p>使った後のことだけではなく、使う前、つくる段階から減らすよう、国やメーカーに対しても要望を上げていくべき。</p> <p>国に、プラスチックはプラスチックでも、何の材料でできているのかっていうことをわかるようにすべき、という意見をあげることが必要だ。</p> <p>対処療法ではなく、つくる責任、つかう責任を考えてもらいたい。命が脅かされている現状に問題意識を持ってほしい。</p> <p>プラスチック分別収集や中間処理の問題は、23区全体で考えていくべき問題だと思う。</p> <p>ペットボトルの回収は、事業者にまかせてはどうか。</p> <p>以前から、拡大生産者責任が進んでいないと感じている。容り法でペットボトルの回収を自治体がすることになっているが、新法の施行で自治体の負担が大きくなるため、ペットボトルメーカーが回収をしたらどうか。</p>
5. 区民への協力依頼方法	<p>区民に色々な協力をお願いするっていうことは、その効果は見える化できたほうが良いと思う。</p> <p>分別収集したものがどのように私たちの生活に戻ってくるか見える化して、リサイクルに協力してよかったという実感をもってもらいたい。</p> <p>プラスチックをどんなふうに出してほしいかというのを区民にお知らせしてはどうか。</p> <p>プラスチックは洗って出すように周知するべき。</p> <p>プラスチックの回収を有料化することで、区民の問題意識も変わってくるのでは。</p> <p>区民が捨てたものを処理するためには費用がかかる、という認識を持っていただくことも大事なのではないか。</p> <p>北区のお知らせが分かりやすく良いと思う。</p>
6. その他	<p>家にある使っていない生地について、回収してはどうか。</p> <p>海外に輸出された古着が引き取ってもらえず結局捨てられている。捨てられた衣服には石油を原料とする化学繊維が使われているため、分解されずに土壌汚染の原因となっている。</p> <p>排出した場所にかかわらず、分別の取組みを、ニュースなどで区民に公表していただきたい。</p> <p>どういう答申を出すのかは、例えばABCのCが金額で妥当だということを出す話ではなくて、上流にさかのぼるなどの提言を出すのが役割だと思う。</p>

検討の視点	委員から出された意見	
第4回審議会での意見	5	区民の方がわかりやすい、取組みやすい方法から始めて、様子を見ながら進めていくというのもありなのでは。
	1	プラスチック単体のものを集めたほうが、後処理のことを考えると有効と思うが、ただ他の素材と一体となっているものが多いので難しいのが現状。
	5	分別方法がかなり複雑化してしまうと、嫌気がさしてしまうのでは。
	4	分別しやすさとともに、その素材が明らかになっていることは十分要望したい。
	5	家庭内で分別していただくことによって、やっぱり認識・意識も向上してくると思う。蓋開けてみたら全部可燃ごみだったというようなことも考えられる。
	1	汚れの付着のあるなしという観点では、その先の処理工程や再商品化手法によって変わってくるのでは。
	5	汚れの付着とかが極力ないものでまずやってみる、っていうのがわかりやすいかなと思う。
	5	大きさについては、シンプルな方がいいということで、粗大ごみの分別ルールと統一して30センチとするのはどうか。
	5	汚れたもの、においがするもの、油物とかはやっぱり燃やさざるをえないのでは。燃やすものとリサイクルするものをきっちりと分けて区民に啓発することが大事なのでは。
	6	当面軌道に乗るまでは、まちづくりセンターでも回収、綺麗なプラスチックだけを集めるっていうのも一つの手だなと思う。
	5	収集は週1回あった方がいい。他の自治体のように、プラスチックの日を設定するか。
	4	新たにプラスチックを回収しようとしたら、より一層行政がパンクすると思う。やっぱり民間とセットになって取り組んでいくべきでは。
	3	受益者負担という観点からも、一定の負担を区民に求めるというのはあってもしかるべきでは。意識を高めるという意味においても、有料化も選択肢の一つではないか。
	第4回開催後の意見	6
3		実際に分別しても再商品化ができない、技術的にできないとか、お金がものすごくかかるっていう話になってくると、長期ではそれは取れるかもしれないけど、短期、目の前では取れませんよねといった形で、短期・中期・長期の見通しの選択の仕方を審議会で議論する必要があるのかなと思う。
3. 2		・P7「プラスチック資源循環について」第4項 「どんなにお金がかかっても」ではなく、「費用対効果を勘案して」という意見だったと思います。その上で世田谷区の場合は、人が多いことから費用面をクリアするという認識です。また、「中間処理施設が区外になっても」の箇所は、単に区外ということではなく、「他の自治体と協力（協同）して」という主旨が包括されている表現の方が良いと思います。
4		・P12「事業者の役割」第3項 事業者の回収について、補助金を助成するなどして、回収を後押しし、少しでも行政による回収負担を軽減するという考えがあっても良いのではないのでしょうか。
2		・P13「区の役割」第5項 「区内整備の在り方」ではなく、第2の検討の視点と平板をそろえるという点において「区内外を問わず整備のあり方」とした方が良いのではないのでしょうか。
2		・区内に中間処理施設ができれば、コストがかからないし二酸化炭素も少なくすむのだが、用地取得が難しい状況で、外環道の予定地はどうかという声があります。検討したらどうか。
4		・区の清掃・リサイクル事業の基本理念と基本方針に、「拡大生産者責任の考え方に基づく発生・排出抑制を推進する」とあり、P.12～P.13には（2）事業者の役割として「提供品の回収に努める」、「・・・自主回収に努める」、また（3）区の役割として「製造・販売事業者には、自らが製造し、若しくは販売等で提供したプラスチック使用製品については自主回収するように促すとともに、自主回収の必要性や取組状況の発信を働きかける。」を進めてほしい。
4		・「国や東京都に対し、プラスチックの分別がしやすくなる識別マークの表示や拡大生産者責任による製品プラスチックの再商品化費用負担の仕組みづくりの要望を行う。」も是非お願いしたい。
5		・北区のお知らせが良いと思ったのは、中間処理施設にて選別・圧縮・保管のところに「人の手によって選別されています」と記載されていることです。リセタもそうですが、その大変な作業を人がしていることを区民に知ってもらいたいと思いました。世田谷区もまだかもしれませんがお知らせには手作業をしていることを入れてほしい。
1. 2. 6		・答申（素案）案を読みながら、あらためて重要だと思ったことを書いてみました。以前から疑問に思っていたことは、それまで薄いビニール（ラップ類も）まで分別していたプラスチックごみのほとんどが可燃ごみとして燃やされるようになり、ごみを出す私たちは楽になったが、環境は大丈夫なんだろうかということでした。過去の審議会の資料を読むことで発電や熱回収できる（サーマルリサイクル）ことも知ることができましたが、二酸化炭素排出により地球温暖化問題と、海洋プラスチック（マイクロプラスチック）問題が注目されるようになりました。そしてこの審議会において、何人かの審議会委員がご発言なさった「命よりも大切なものはない」という言葉に我に返ったような気がいたしました。やはりプラスチックはできるだけ燃焼させてはいけないのです。ただし、多くの困難を解決しなくてはプラスチックをリサイクルできないことを、この審議会で学ぶことができました。まず、単一でないことが資源化を困難にしている＝資源化ルートが確保されていない、プラスチック類を分別するためにも中間処理施設を何とか確保すること、分別するにも費用負担を考えなければいけないことを知りました。廃プラスチックの資源循環の高度化への取組みが急務となっていることを認識し、あらためて命を大切にするという大原則にたちかえって考えると、リデュースにつながる生活習慣が区民一人一人に根付くことが大切だと考えます。
6		・この答申を読ませて頂き、世田谷区民としてひとこと。危機感が感じられないのです。健康と命がおびやかされつつあるプラスチック（マイクロ）問題は特に喫緊の課題であります。諮問の、取組みの急務化と推進が読み取れないのです。啓発や施設や…etc 明日からでも早急に出来る所から手をつけて頂きたいと思っています。プラスチック資源循環施策を今一度推し進める為の区、事業者、区民など一体となつての推進の覚悟の上、分別収集のあり方を広げてください。
3		・資源循環出来ないプラスチックは発生、排出抑制を推進しながら、事業者主体で回収の方法を義務付ける（有料化）など。
2. 5		・プラスチック問題は基本的に海洋汚染とマイクロプラスチック問題からおきてると単純に考えています。汚染により魚が死んだり、マイクロプラスチックが魚体に蓄積し、その魚を人間が食べ体内に蓄積していき蝕まれる。こういった問題を少しでも無くする方向にもっていくには、回収に向けて動かざるを得ないと思います。経費の増大を招くとの論がありますが、リスクはある程度とらなければならぬと思うと共に、やはり幼い頃からのリサイクル・海洋汚染やそれを取りまく環境等の教育になってくると思います。又、リサイクルを実行するにあたって、排出するプラスチック類の例示を具体的な絵をもって沢山出していただくと、出し間違いを防ぐことにつながるのではないかと考えています。教育と例示が大切な要素となると思います。そして、現実化していくにあたって一番のネックは、中間処理施設の建設、リサイクル製品の加工施設建設問題となり、大きく立ちはだかってくるのではないかと考えています。東京都や民間の力を借りたりして、解決の行方は望めないのでしょうか。